

助成年度：平成 13 年度

[所属] 奈良教育大学 自然環境教育センター

[役職] 助教授

[氏名] 鳥居 春己 (他計 2 名)

[課題]

奈良公園シカの生態学的研究

[内容]

奈良公園のシカに対する市民の意識調査とシカの生態学的調査を実施した。多くの市民はシカを好意的に見ており、被害の存在を知らず、害獣という認識は低かった。そのことが市街地で高密度にシカが棲息することを可能にしたいと考える。奈良公園のシカは保護されることにより、高齢個体が存在し、平均寿命も長いことが示唆された。胃内容物分析結果は奈良公園の植生を反映していたが、鹿煎餅や野菜屑など人由来の餌は識別が困難であった。シバは春から秋までに検出され、草本本類と野菜の葉は夏に減少したが、野菜屑は安定して供給されていることから、常緑広葉樹の落葉の減少のためと考える。ササが夏に摂食されていたことは、特徴的なことであった。胃内容物の蛋白質含有率からは、摂食物の栄養価は低かった。初産年齢は 3 歳で、その後は隔年あるいは 3 年に 2 回の出産である可能性が高い。これらは奈良公園シカが低質個体群であることを示すと考える。腎脂肪指数からも脂肪の蓄積の少なかったが、そのことが餌条件の悪さを反映しているかは不明であった。下顎骨の計測ではメスよりオスが大きく、20 年前の奈良公園で収集された個体の下顎骨との比較では、小型化は確認できなかった。角の計測からは、角の奇形は疾病によることが示唆されたが、個体ごとの継続調査を可能にした。奈良公園シカは低質個体群である可能性が示唆されたが、餌条件などの改善は個体数の増加と春日山原始林など周辺地域への分散を促す可能性があり、市県民総意による管理技術の確立が急務と考える。